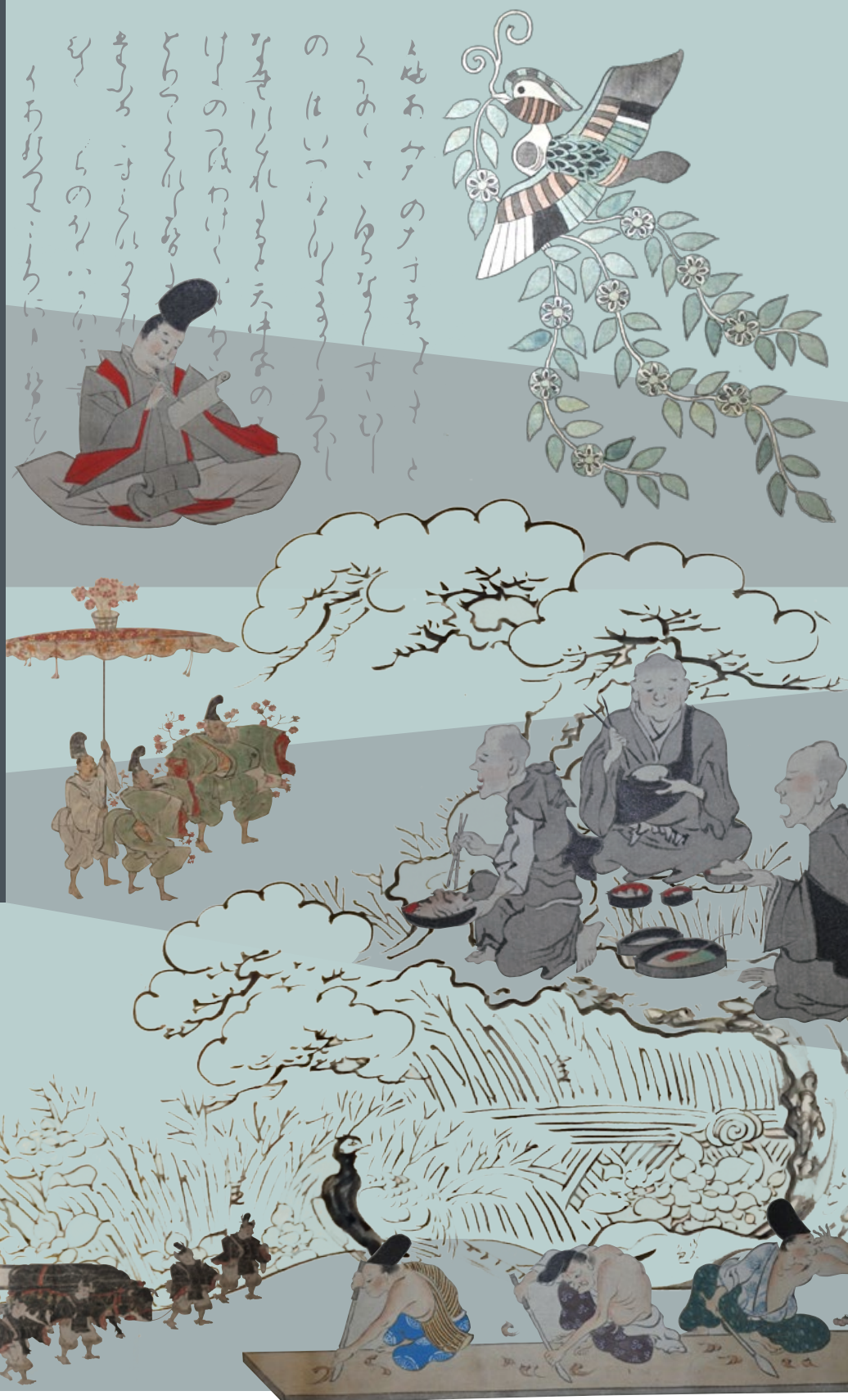


# 京都高等学校 守住勇魚と 工芸学校



2017年1月10日(火)～2月24日(金)

京都工芸繊維大学美術工芸資料館 (地下鉄烏丸線松ヶ崎駅下車徒歩10分)

休館日: 日曜、祝日、1月14日(土)

開館時間: 10:00～17:00 (入館は16:30まで)

入館料: 一般200円、大学生150円、高校生以下無料

\* 京都・大学ミュージアム連携所属大学の学生・院生は学生証の提示により無料



企画・主催: 京都工芸繊維大学美術工芸資料館  
協力: 京都・大学ミュージアム連携

京都・大学ミュージアム連携  
University Museum Association of Kyoto



京都工芸繊維大学  
美術工芸資料館  
MUSEUM AND ARCHIVES

## 『守住勇魚と京都高等工芸学校』

京都工芸繊維大学の前身校のひとつ京都高等工芸学校では、明治35年（1902）の開校より、図案科、色染科、機織科のための教材、参考資料として多くの美術工芸品、標本、書籍類を集めてきました。本展覧会では、このうち同校の図案科初代教授、浅井忠（1856-1907）と深いつながりのあった守住勇魚（1854-1927）より、明治37年から38年にかけて購入した資料をご覧いただきます。

勇魚は、伝統的なやまと絵の流派である住吉派の日本画家、守住貫魚（1809-1892）の次男として徳島に生まれ、父のもとで日本画を学んだのち、浅井とともに、彰技堂、工部美術学校で洋画を学びました。同志社理科学学校などで画学教員をつとめながら、貫魚の死後は再び日本画も描き、川島織物の依頼で綴織の下絵の製作などもおこないました。

勇魚から購入した資料のなかには、有職故実に通じ名所旧跡や古物の写生、模写に力を注いだ貫魚による正倉院や法隆寺の宝物の絵が多く含まれています。また、源氏物語絵巻や百鬼夜行絵巻など古典的な絵巻の模写や、土器や道具の模型などもあり、日本の美術史を学ぶうえで貴重な資料であるとともに、図柄やかたちに焦点をあてた図案製作のための参考資料になったとも考えられます。

アール・ヌーヴォーに代表されるヨーロッパのデザイン潮流の影響を強調されることが多い京都高等工芸学校の教育ですが、明治37年には、図案科に日本画家の菊池素空（1879-1922）が講師として迎えられるなど、日本の伝統的な美術もまた重要な要素として取り入れられていたことを知っていただければと思います。



(左) 守住勇魚 紫宸殿障子縮図（模写）AN.3789

(中央) 作者不詳 百鬼夜行絵巻（模写）AN.3449 / (右) 花車雛形 AN.1003



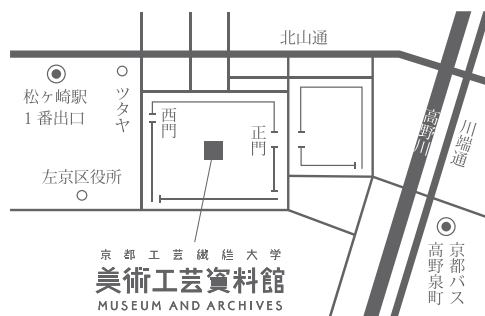
守住貫魚 正倉院蔵琵琶之図（上）（模写）AN.3464-1



\*すべて 京都工芸繊維大学美術工芸資料館所蔵



〈アクセス〉



地下鉄 京都市営地下鉄丸線「松ヶ崎」駅から徒歩8分  
バス 京都バス「高野泉町」下車、徒歩10分

京都工芸繊維大学美術工芸資料館  
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町  
TEL：075-724-7924 URL：http://www.museum.kit.ac.jp/

同時開催中：未来の途中の星座 — 美術・工芸・デザインの新鋭9人展  
会期：2017年1月10日（火）－2月24日（金）  
休館日：日曜・祝日、1月14日（土）